



情報活用能力の育成（前号の続き）

最近、チャットGPTに関する記事を多く見る機会があります。AIの進化に伴い、私たちが知りたい情報がますます早く手に入るようになった反面、間違った情報を手に入れるリスクもあります。

ICTが生活必需品の現代で、子供たちは必要な情報をどうやって手に入れるか、手に入れた情報が必要なものかどうか、正しいかどうかを見極める力を身に付ける必要があります。そして集めた情報から問題を解決する力が求められます。いわゆる問題解決能力における情報活用能力です。

では、具体的にどのような学習をして、この力を身に付けていくのでしょうか。

各教科や総合的な学習の時間では調べ学習をする場面があります。分からないこと、知りたいことについて必要な情報を集めるところから始まります。低学年の子であれば、まずは人（家族、友達、先生）に聞くことから始まります。それから学年が上がるにつれて、図書、インターネット、現地取材など、手段も増えてきます。

そして、集めた情報の量や質について考えます。人から聞いた情報については、教えてくれた人の情報活用能力によるところが大きいですが、その人を信じるしかありません。子供が成長するにつれ、手段も増えてますが、本校では図書の活用に重点を置いて指導します。タブレットPCは、子供たちに早く、そして大量に情報を与えてくれます。しかし、その中には不要な情報、不正確な情報も含まれます。未熟な子供がそこから必要な情報、正しい情報を見付け出すことは難しく、逆に間違った情報に振り回されるリスクも生まれます。一方で図書を活用することは、情報の新しさは劣るものの、正確性や適切性などにおいて優れています。正確で、子供にも分かりやすい情報は図書に多くあります。

まずは、適切な量の正しい情報を得るところから始め、基礎的な知識を得た後にインターネットの情報に触れさせることで、情報の信憑性まで判断できるようになるものと考えます。

今年度は「第3回清瀬市図書館を使った調べる学習コンクール」に学校を挙げて参加する予定です。子供たちが「なぜなんだろう、どうしてなんだろう。」「やってみたい。」「かなえてみたい。」ことなどを、家に持ち帰り、解決に向けて調べたり試したりしたことをまとめます。保護者の皆様も一緒に考えていただけたらと思います。また、情報収集の場面においては、一緒に図書館へ行ったり、フィールドワークしたりと、サポートしていただけるとありがたいです。